

ご支援・ご協力ありがとうございました！ 第5回世界社会フォーラム報告

「イラク占領やめよ！」「もう一つの世界はここにある！」
第5回世界社会フォーラム（ブラジル・ポルトアレグレ 1/26-31）に集まった参加者は、過去最高の15万5千人。インターネットで瞬時に世界とつながる時代になっても、直接出会い、語り合い、違いを超えて共同を目指す運動は、熱気に溢れ、世界中から参加者を惹きつけて止みません。増え続ける参加者もさることながら、今年は、国連やIMF、世界銀行の代表も NGO と共同の円卓会議に参加するなど、政府閣僚や国際機関代表の積極的な参加も（日本ではほとんど報道されていませんが）注目を集めました。公正で民主的な国際秩序を求めるフォーラム運動が、無視できない世界の流れになっていると感じさせられます。以下は、北海道から参加した影山あさ子（北海道 AALA 事務局）の報告です。



オ・プニング・マーチ(1/26)

道路いっぱい、前も後も見渡すかぎり人、人、人・



開会集会にて(1/26)

20万人が参加したオープニングマーチ（デモ）

ポルトアレグレは連日快晴、じりじりと焼ける真夏の日差しの中で、第5回世界社会フォーラム(WSF)が始まった。ムンバイに続き、土埃と喧噪の・・・と思いきや、ポルトアレグレは緑に溢れた美しい街。一緒に行った人は「ニュージーランドやスイスみたい」と。リオ・グランジ・スル州はブラジルの最南端、アマゾンとは反対側、アルゼンチンのパンパに続く gaucho（カウボーイ）の国。州都ポルトアレグレの人口は、100万と少し。そこへ135カ国から15万5千人がやってきた・・・。

会場となったのは、川岸のヤード跡。徒歩なら端から端までゆうに1時間はかかるかと思う広大な敷

地は、テーマごとに、AからKまで分けられ(註1)、各会場に白い仮設テントが並ぶ。よく内容はわからないが、すべて「連帯経済プロジェクト」の一環で、「バイオ建築」なのだそうだ。

註1/A: 思想と知識と技術の社会化と共有 B: 多様性とアイデンティティの確立 C: 芸術と創造 D: コミュニケーション E: オルタナティブな経済と産業 F: 民主主義と社会闘争 G: 平和と非武装 H: グローバルな民主的秩序づくりと市民社会 I: 人間ののための人間による人間の経済～対ネオリベリズム J: 公正で平等な世界のための人権と尊厳 K: 倫理と宇宙観と精神性～新しい世界への抵抗と挑戦(反戦・平和、基地問題、非同盟運動を中心に参加した私たちは、もっぱらこのF～Hの間を連日いったい来たりしていた。)

地元紙によれば、初日のデモ参加者は20万人。「イラク占領やめよ」「世界は売り物ではない」「北の国は南の国に歴史的、社会的債務を支払え!」「貧困をなくそう」「武器を規制しよう」「米州自由貿易地域反対」「ラテンアメリカの団結を」など様々な言葉で書かれた様々なスローガン、色とりどりの横断幕、歌ったり、踊ったり、竹馬に乗ったり、大きな地球

オープニングマーチにて。曲は No Woman No cry



の風船があったり、トロンボーンを吹いたり、ラッパがいたり…。前も後も、道一杯に続く人の波。沿道に人も一杯、ア

パートの窓から皆がながめる風情は、祇園さんの宵山。WSF が街のイベントとして市民にとけ込んでいくということなのだろう・・・。

今回は全労連から 8 名の代表も参加していたが、20 万人のデモの中で「建交労」「自治労連」といった幟を見るのも不思議 & 新鮮。とにかく「漢字は格好いい!!」ということらしい。「NTT は不当な解雇・合理化をやめよ(だったかな?)」という日本語のゼッケンでブラジル人も嬉しそうに歩いていた。

私たちは、日本 AALA のワークショップのチラシや北海道 AALA の映画「Marines Go Home!」のチラシを配りながら歩いた。

朝まで盛り上がる！開会集会

開会集会は、津波犠牲者らのための 1 分間の沈黙で始まった。広場はびっちり満員。コンサートを



楽しみにやってきた地元の青年やデート中のカップルも多数と見えた。ライブが始まる前から、流れる音楽にみんなノリノリ。大きな地球の風船が、大玉はこびのように、参加者の頭上を運ばれてゆく(写真上)。「私もさわりたい」とジャンプするも届かず(残念!)

踊りながら待つことしばし、ようやくライブが始まった。トップバッターはインドのフォークシンガー。うーん、言葉のわからないフォークは苦しい。あえなくホテルへ退散。ムンバイに続き、またしてもジルベルト・ジル(ブラジルの文化大臣)のコンサートを見逃してしまった。翌日のセミナーでプエ

ルトリコ人が寝不足であったことをみても、ほとんど朝まで盛り上がったことは、間違いない。

手応え十分！ - 北海道発！映画「Marines Go Home!」(ダイジェスト版)の上映

その 1 : 米軍基地撤去セミナー

今回の WSF には、北海道から製作中の映画「Marines Go Home! 辺野古・梅香里・矢臼別」(藤本幸久監督)のダイジェスト版(15 分)を持ち込んだ。地球の反対側で、イラクの人々に心を寄せつつ、日々闘う現場に暮らす人たちの姿と言葉を伝えたかった。

全部で 3 回上映したが、初めての英語でのプレゼンテーションは緊張の連続、覚悟していたこととはいえ野外テントでの上映に結構苦労した。

最初は米軍基地撤去のセミナー。日本からのプレゼンは 6 分、と言われ日本平和委員会の川田忠明さんが在日米軍の現状について 3 分話した後、辺野古の海上阻止行動とメッセージのシーンを中心に 3 分、ビデオを見てもらった。韓国の緑色連合のコ・ジソンさんは「韓国のオサン基地拡張問題で闘う人たちに、ぜひ辺野古の闘いを知らせたい」と言ってくれた。イタリアの女性からもぜひ、仲間に見せたいと。



セミナー風景

「伝わるぞ!」と好感触。ピースボート、ピープルズプラン研究所の小倉さん、沖縄の高里すずよさんらも、みな辺野古への連帯を訴えた。

報告では、米国の軍人養成学校「School of the Americas」(米国の手先となって、自国民を残酷に弾圧する幹部をつくる)への派遣をやめ、米国の連絡将校らも国外へ追い出したベネズエラ、ガラバゴ

スへの米軍基地建設計画を否決したエクアドルなど、ラテンアメリカの勢いを感じる。また、200万人のデモを組織したイギリスの「Stop War Coalition」のケイト・ハドソンさんの、「Stop War!」「End Occupation!」という誰にもわかる、シンプルなスローガンが大切だという報告も印象に残った。イラ



蚊の模型でデング熱対策の訴え。

ク戦争と共に基地撤去運動へ反戦、厭戦の市民が合流してきているという。No US Baseのネットワークは、今年の秋、正式立ち上げのための国際会議を計画している。

上映その2 日本 AALA 非同盟ワークショップ

次に上映したのは、日本 AALA のワークショップ「平和と反映のアジアのために～バンドン会議 50周年記念・公正と民主の世界秩序を目指す非同盟運動の再活性化を」。お祭りハッピーで、「映画見てね、見てね」と呼び込みをした（司会と通訳もかねていたので、頬の筋肉が疲れた～）。

日本 AALA でつくった「沖縄からの呼びかけ」ビデオに続き、「Marines Go Home!」を上映、「平和と繁栄のアジアのために」という基調講演を北村実日本 AALA 副理事長が行い、在日米軍基地の現状と再編問題について、日本平和委員会の川田さんが話した。

参加者は「バンドン会議 50周年」の集会を企画しているインドネシアの青年、AAPSO の女性、スリランカの農民運動の人、日本のアニメが大好きなブラジルの国際政治学の学生などなど約 40 名。「ここは日本語で聞けるでしょうか？」と外国語のセミナーに疲れて漂着した東京の女性もいた。

「バンドン精神をもっともよく引き継いだのが非同盟運動。低迷期もあったが、今、現実政治に存在

感を示している。そうした諸国が東アジア共同体を初め、世界各地で地域共同体をつくり、平和と発展のために積極的役割を果たしている」という北村先生の話には、「非同盟運動の再活性化の可能性とその主体はどこにあるのか」「ラテンアメリカで考えれば、その表れはどこにあるとみるのか」「東アジア共同体が、EU のように形作られる可能性は？」など、積極的な質問が相次いだ。

北村先生は「地域共同体が鍵。アフリカ連合、ラテンアメリカならメルコスルといった試みが、注目される。東アジア共同体は、EU よりももっとゆるやかな連合となるだろう。日本も第二次世界大戦の侵略行為を真摯に反省して、この流れに合流すべき」と答えていた。

川田さんにもスリランカの代表から「スマトラ沖地震をきっかけに、スリランカにも多数の米軍部隊がやってきた。今後、この地域に彼らは駐留するだろうか？この部隊の集中の背景はどうなっているのか」という質問が出された。

東京から来た女性は、「米軍の横田基地が東京にあるということは、ニューヨークやワシントンに外国軍の基地があるということと同じ事だ」という川田さんの話を聞いて、はっとしていた。東京にいたので、当然、横田基地があることは知っていたが、その意味（「主権」の問題）に初めて気がついたという。

行列が出来た！核廃絶の署名

夕方、日本原水協が借りているブースを覗いた。誰もいなかったが、写真パネルに見入る人たちがいる。せっかくなので、「いま核兵器の廃絶を」の署名を取り



警備の MP も、No War!シールを身分証に貼ってくれた。;

出す。「No More Hiroshima, Nagasaki」と言うだけで、みな快く書いてくれる。行列ができた。お礼にと北海道 AALA でつくった「No War!」のシールをあげると、みなさっそく貼ってくれる。ブラジルのお嬢さんたちは、OPP の上にぺたんかと貼っていった。「日本から来た」というと「ヒロシマからか?」とタクシーのウンちゃんにも言われる。みんな知っているんだなー。

アチェの青年に会う

翌日(1/29)は、午前中、Asian Regional Exchange for New Alternative(ARENA)の主催する「バンドン 50 年・平和共存のためのアジア・アフリカ・ラテンアメリカの交流」に参加。インドネシアのアチェから来た青年に会った。マレーシアにいたので難は逃れたが、親族が二〇数名亡くなったという。インドネシア国軍は未だ弾圧をやめない、と真剣な訴えが心に響く。「スマトラ沖地震の被災者のための募金を国際婦人デーで訴えたい」というツアー参加者と一緒に彼と話した。インドネシア(アチェ?)で、救援活動などに携わる組織は、主に People's Crisis Center(PCC)、NGO'S Forum、Pace の3つあり、彼は、PCC の人。アチェに七カ所の拠点を設け、数百人のボランティアで活動しているという。子どものため、女性のため、などのいくつかのプロジェクトがある。プロポーザルを書いて送るので、ぜひ検討して欲しいとのことだった。

名刺を渡すと「映画を作っているの?」という。実は僕もつくっている、というのだ。DVD を交換した。見るのが楽しみ!!

「Marines Go Home!」は私たちのスローガン イラク代表に会う

昼休み、食堂テント。「あ、レカービさんだ」。ムンバイにも来ていたイラクの代表で、昨年4月の日

本人拘束事件のとき、イラク国内と連絡をとって3名の解放まで正確な情報を流し続けてくれた人だ。お礼も言えてよかった。彼のほかにも3名のイラク代表が食堂にいた。

その中の一人(英語が通じる人)に「これからこの映画を上映するので、ぜひ見に来て欲しい」とチラシを渡した。すると「これはいい、Marines Go Home!は、我々のスローガンでもあるんだよ」と。「え、同じスローガン!!」思いもかけない言葉に、熱くなった。

ナシリアに物資を送ろうと思っているとセイブイラクチルドレン札幌の話もした。「ぜひ、ファルージャも気にかけて欲しい。みな難民生活。世界は見捨ててはいない、と彼らに伝えて欲しい。今、そうした支援の受け皿を作るよう努力している」と。そして今の状況について「占領反対の一点でまとまれるよう、努力している。イラクの再建は選挙を通じてのみ可能だと思うが、この選挙ではないのだ」と話してくれた。

上映その3 世界平和評議会ワークショップ

午後は、世界平和評議会のセミナーに参加。川田さんの紹介で、プレゼンテーションが出来ることになった。おっ、客が一番多いかも!アメリカの代表、グアンタナモ基地の問題を訴え今年11月に米軍基地撤去のための国際会議を主催するというキューバの代表、ブラジルの代表らの報告の後、私の出番。AALA のツアーの人たちをお願いして、テントの入り口を全部閉めてなんとか少し、暗くしてもらった。

「友人のみなさん、私は日本から来ました。みなさんに、今、この星の反対側で何が起きているのか伝えるために。イラクでは、たくさんの方が殺され続けています。この米国の犯罪に、私の国の政府

イラク代表のレカービさんと



は、兵士を送り、兵站を与え、軍事基地を提供して、協力しています。軍事基地のあるところ、人間の生活は脅かされます。そして苦しみのあるところには、必ず人々の闘いがあります。沖縄と韓国と、そして私の住む北海道で闘う人々にどうぞこの映像を通じて、出会ってください。彼らこそポルトアレグレに在るべき人たちですが、厳しい日々の闘いの現場を離れることなどできないのです。自分たちの場所に居続けることが闘いです。」と話し、辺野古と梅香里、矢臼別を紹介して、ビデオを映した。

ビデオが終わったとき大きな暖かい拍手が起こった。梅香里に演習場について語るチョン・マンギュさん、矢臼別を自然あふれる平和公園にしたいという川瀬さん、今やらなければ誰がやるという金城さん、人殺しのための基地増強を必ず止めてイラクの子供たちに会いに行くという夏芽さん、沖縄、日本、世界の人たちが動いてくれる時間をつくるのが自分たちの仕事と海の上で語る悦美さんの言葉が伝わった！と感じた。

緊急課題として辺野古への連帯と支援を訴えて、報告を終えると、ずっとうなずきながら聞いてくれた女性が、「Humanで、とてもよかった」と握手を求めてきた。テキサスで基地撤去運動に取り組む女性も。イタリアのコミュニティTVが流したいと。インドの女性は「インドも知らせたい。インドでは国内の軍事基地問題が深刻なのだ」という。

この日はポルトアレグレでも暑い日、という37度。締め切ったテントの中は、ほとんど韓国式サウナのような。その中でも、最後まで見てくれたみなさん、本当にありがとう！！

セミナーが終わったら、私も外に飛び出て、芝生に大の字になった。日本からの参加者も「よかったよー」と褒めてくれた。ほっとした。

芝生でごろごろしていると、日本の平和委員会と連帯委員会を訪ねて、ブラジルの社会主義人民党の

女性がやってきた。今年1月まで続いた労働者党に代わって、今、ポルトアレグレ市政の与党となった政党だ。WSFの準備が、労働者党からの市政委員の時期に重なり、準備が不十分と憤慨していた。ムンパイを知る我々には、この会場も十分パラダイスのだけど・・・。ブラジル用にM-PAL形式に変換したビデオを差し上げた。

イラク占領やめよ！～世界反戦総会

辺野古も核廃絶も行動計画に盛り込まれる。



1月30日は、朝から世界反戦総会。前日までの様々な討論の結果を文章にまとめ、3.19-20「イラク占領やめよ」国際共同行動を中心に提案してくれた議長団・事務局の奮闘にまず敬意を表したい気持ち。辺野古の闘いへの連帯も行動計画に盛り込まれている。やったー！！

総会の冒頭、イラクの代表の間に緊迫した空気が流れた。イラクの抵抗運動への無条件の支持を盛り込むか否かが問題になっていた。しかし、この提案は容れられなかった。議長団も「私は、支持している。しかし、占領反対のための共闘を狭めるわけにはいかない。すべての平和勢力を結集しよう」と。

次々と、提案が述べられる。日本からは沖縄の高里さんが、辺野古を行動計画に盛り込んだ事に感謝しつつ、戦時下の女性への暴力と闘う人たち、イラク占領に反対する人たち、基地撤去運動で闘う人たちの幅広い結集を呼びかけた。また日本原水協の代

表は、NPT 見直し会議の始まる前日 5.1 と 8.6-9 の被爆 60 周年での核兵器廃絶のための国際共同行動を提案し、これも行動計画にも盛り込まれた。

日本の呼びかけに、世界が応えてくれた。今度は、私たちが世界の呼びかけに応える番だろう。3.19-20 の国際共同行動、日本でもぜひ大きく成功させたいと思う。

各集会での報告をひとまず終えたので、会場のブースを少し回ってみることにした。”エコなんとか”、と言う出店基準があるようで、「自然」「環境」「オーガニック」といった単語が並ぶスペースが多い。何となくみな手作り風（母親大会風？）。もちろん各国の NGO が出しているブースも、CD・書籍コーナーも有る。T シャツやポスターもゲバラが一番人気だが、マルクスもレーニンもトロツキーもローザ・ルクセンブルグも毛沢東も、みんな仲よく並んでいる。

ベネズエラのチャベス大統領に会う

この日の夜は、ベネズエラのチャベス大統領（註2）が大衆集会にやってくる、というので、5 時前ぐらいに会場へ向かった。早めに行って、参加者と話をするのもいいよねーという気分だったが、会場のジガンチーニョ（真駒内アイスアリーナの少し小さい感じのところ）に近づくと、ものすごくたくさんの人たちがならびはじめていた。「えー！やばーい」と急ぎ会場へ飛び込む。

会場は既に一杯。天井桟敷方面に陣取る。ベネズエラの国旗、政党や労組、MST（土地なき農民運動）、七色の PEACE 旗などいろいろもって、すでに会場は 9 割方満杯。入れなかった人たちは、会場の外のモニターを見ていた。

（サッカーの応援風）「オレー、オレ、オレ、オレー、チャベース、チャベース！」とか、「チャベス！、アミーゴ（友だち）！、エル・プエブロ（人民は）、

XXX（???）、コン・ティエゴ（貴方と共に）！」といったスローガンが、次々飛び出し、ウェブが何度もまわる。今にもチェベス登場か！！???と聞きや、それから約 2 時間は待たされた。

もちろんその間、様々な歌あり、演説あり。三曲



ぐらいいは知っている歌もあった（「人生よ、ありがとう」「グアンタナメラ」「インターナショナル」）。しかし、「インターナショナル」をブラジルの参加者みんなが知っている風ではない。デートかたがたのお熱いカップルもいれば、隣の民宿のお兄ちゃんは怪訝そうな顔をしていた。

びっくりするのは、チャベスへの熱狂の他に、労組幹部や閣僚に向けられるブーイングの激しさ。これには隣の地元のお兄ちゃんもビックリしていた。

この二日前にブラジルの現大統領・ルーラもポルトアレグレへやってきた。ダボス会議へ向かう直前だ。そのときもブーイングが出たそうだ。

ルーラは労働者党で、サンパウロの金属労組出身。革新政権と言われているが、就任二年たっても公約が一向に果たされないと苛立っている向きも多らしい。一方でもっと時間が必要だ、という穏当な考えの人も多く、WSF の会場やデモの際は「ルーラ 100%！」というスローガンも目立った。多分、いろんな主張の勢力が、「ルーラ」と「チャベス」という親分・人気者たちを立てて、応援合戦を繰り広げたということなのかもしれない。

註2 / NHK スペシャルで「4.11 クーデター未遂事件」を観た人は、存じ！米国や財界の言いなりを拒否し、目下人気絶大。



遭遇！チャベス大統領

ようやくチャベスが登場！スゴイ歓声。真っ赤なシャツに黒いズボン、ずんぐりむっくりのオジサンが、話し始めた。スペイン語だけれどもな結構わかる風。「この映像は、世界各国に流れている、キューバにも中継されているんだ。ハーイ、フィデル、元気かい？」なんていう調子だったらいい。米国の一国支配やグローバリゼーションへの批判、闘いのスローガンなどがたびたび繰り返される。その場にいる人たちへの感謝や敬意がまた、心憎いタイミングで挿入される(らしい)。午後 11 時前、ようやく演説が終わった。サインをせがむ群衆。その一人一人に丁寧に対応するチャベス。

宿舎に戻ると「事件でもあったのか？」と思う警察の配備。聞くと「チャベスが来る」という。ええー！！ここに泊まるの！？一同、ソワソワ、ドキドキ、浮き足立った。

来た！、チャベスだ！。え？？隣は奥さん？ちょっと若くない？(おねえちゃん大好きのオーラが出ている)。突撃インタビューを試みるプレスもある。握手を求めると、本当に一人残らず、握手をしてくれる。さっきあれだけ演説して、サインもすれば、くたくただろうに…と思いつつ、私も握手。

財界を敵に回し、米国にたてつき、大衆の支持だけが、チャベス大統領の基盤。たった一つの握手も無駄にしない、どんな人も無視しない、鈴木宗男先生のまだまだ数段上に行くエネルギーだ。

1月31日、いよいよWSF2005も最終日。朝から社会運動総会。1000人以上収容の会場に入りきれず、地べたに座る人、テントの外に座る人、参加者

の真剣さが伝わる。前日の反戦総会と同様、3.19-20の国際共同行動が呼びかけられ、各分野からの提案が続く。イラク戦争・占領反対、反戦平和、国際機関の民主化、児童・強制労働反対、国の発展から取り残されている先住民や被差別住民の権利擁護を含む人間の尊厳を守るたたかいなどで共同行動を呼びかける文書が採択された。

外へ出て、一息。閉会集会に参加して、その後デモだなーと思って、テントの裏手にいたら、あれあれ？人の気配がない。清掃の人たちが撤収をはじめ。え？閉会集会は？？デモ隊を探して、タクシーで出かけた人もいたが、私は売店で、「PAZ(平和)」と書いたハチマキ(80円)を購入し、一人デモ。

ユースキャンプの中を通る。期間中、約3万人がここで暮らしていた。難民キャンプみたい。簡易シャワーが設置されているが、水着かトップレス、もしくは全裸で皆シャワーを浴びるので、WSFの観光スポット？の一つだった。キャンプの中でアクセサ

リーなどお土産グッズを売っているお兄さんから6個(1200円)買って、一つおまけしてもらった。何となく話はずむ。

お兄さんの名前はセルジオ。

「日本に帰ったら、イラクから日本も帰ってくるよう頑張るね」というので、「頑張ってるよ」と北海道AALA特製「NO WAR!」シールをあげた。とても喜んでくれた。そして「これはプレゼント」と言って、赤いピアスをくれた。頑張ろうね、固く握手をして別れた。WSF2005が、終わった。(影山あさ子)



会場で見かけたポスター

北海道 AALA

世界社会フォーラム報告会

とき： 2005年3月4日(金)
午後6時30分から

ところ：札幌エルプラザ(北区北8西3)
中研修室

報告：影山あさ子(道 AALA 事務局)
特別報告：鈴木頌(道 AALA 副理事長)
「ラテンアメリカ～闘いの底流」

参加費：500 円

問い合わせ：北海道 AALA
011-747-0977 Fax 011-717-0997

今回の WSF、私には以下の4つの目標があった。

「Marines Go Home! 辺野古・梅香里・矢白別」ダイジェスト版を上映し、日本と北海道の闘いを訴えてくること、
ネットワークを拡げたい!
(にも関連して)イラクの人と会いたい!
国際的な反戦・平和運動の成果と潮流を持ち帰りたい!
ブラジルの音楽、文化を満喫したい!

結果的に、目標はすべてクリア!(と思う)。

については、WSFのあと立ち寄ったリオ・デ・ジャネイロが印象深い。2/5からカーニバルだったのに、我々のツアーは2/3に帰国という間抜けな日程で、残念と思っていたが市内各所で各チームの練習が行われていた。我々のホテルのすぐ目の前も練習場。道一杯に数千人?が集まっていた。

先頭に行くのはソリストたち、後に各グループ、パーカッション隊、歌い手さんたちの山車、そしてまたダンスチームと続く。

みんな山の上のファベイラ(スラム)の人たちだ。一緒に踊ればみなすぐ仲良し、なんと山車の上に乗るのぼって一緒に踊ってしまった!(本番だったら無理だった) 次の日も待っていたけど、総練習は毎日というわけではないらしい。みんなにまた会いたかったのに、残念!

今回の WSF は……各地での分散開催(アジア、アフリカ、ヨーロッパ、アメリカなど)で、2007年はアフリカと決定。詳細は4月頃の国際委員会で決まるらしい。

今回は日本から、人数も、分野も、もっとたくさんで参加できればいいなーと思っている。



出前報告会承り中!

フォーラムへの代表派遣にご協力いただいたみなさん、ありがとうございました。フォーラムのこと、ブラジルのことなど写真も交えて報告します。初めてのブラジル(のみならず初めてのアメリカ)でしたが、ブラジルはすっかり大好きになりました。お気軽に北海道 AALA までお問い合わせくださいませ!

3.19-20の国際行動も、ぜひ昨年を上回る規模で成功させましょう!

北海道アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会(北海道 AALA)
〒001-0017 札幌市北区北17西3-21 高栄荘1F 011-747-0977 Fax 011-717-0997
AALA-HOKKAIDO@ma6.seikvou.ne.jp <http://ha6.seikvou.ne.jp/home/AALA-HOKKAIDO/>